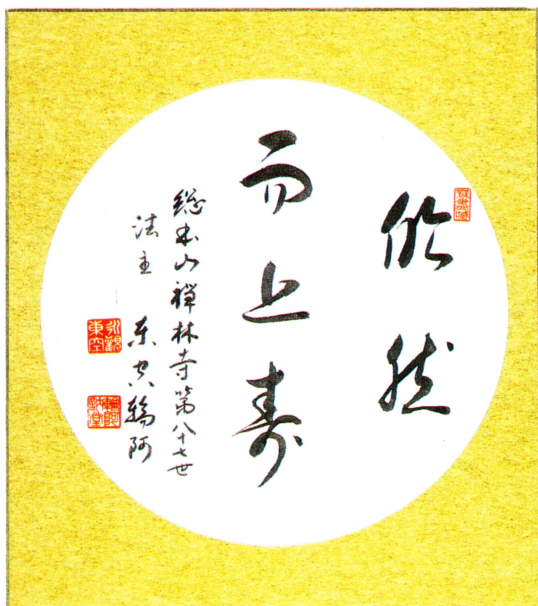


わが心鏡にうつるものならば
さぞや姿のみにくかるらん

外に賢善精進の相を現し
内に虚仮をいだくことを得ざれ

善導大師



電車が駅に着いた。青年が降りようとして席を立ったので、前にいた中年の人がそのあとに座ろうとした。すると、青年はこの人を押しのけ、近くにずっと立っていたおばあさんを座らせて、下車していった。老人を優先した青年の行為は、一見、正当のように思える。が、はたしてそうだろうか。

おばあさんを思いやる気持ちがあるならなぜ駅に着く前、立っているおばあさんを見つけた時に席を譲らなかつたのだろうか。自分の欲望のほうを優先させ、満足させた上での行為は、「善行」といえるかどうか。他人ごとでない。私の心の中にも、この種の偽善とエゴイズムが住んでいる。

総本山 永観堂 禅林寺

行業とぼしくとも

うたがうべからず

—— 西山上人『鎮勸用心』 ——



慈
お
向心

禅林法主 永観堂 阿彌陀佛



早朝、一袋のペット・フードを持って公園を散歩するのが、その老婆の日課になっている。二匹の野良猫が、老婆を待っていて、足元にじやれつくようにして、その餌をねだる。いつも決まった場所で餌を貰えることを知っている猫たちは、その場所まで老婆を先導するように駆けていく。

どんなに天気が悪くても、待っていてくれる猫たちのことを思うと、出かけない訳にはいかない、と老婆は楽しそうに話してくれた。

しかし、老婆が病気になって寝つきでもしたら、二匹は途端に飢えることになるのだが、猫にはそんなことを考えることもできない。ひたすら老婆を信じて、毎朝決まった時間に、公園のその場所で待っている。ひたすら信じるというけなげさ。それは人間よりも動物のほうが一途なのかもしれない。私達人間は、ややもすると、この疑うという心の動きのために、自分自身を不幸にしているのではないだろうか？

総本山 永観堂 禅林寺

あわ
哀れなるかな電光の命 いのち

そうろ
草露の朝を待つが如し

西山上人



電光
草露

総本山 禅林寺
第八十七世法主
東大 鶴阿



“そのうちの人生”

お寺の企画で参拝旅行をすることにした。
少しでも多くの人に参加してもらいたい。

ある中年の奥さんに仏様とのご縁を結んでいただこうとお誘いした。その女性は、
こう言って立ち去っていかれた。

「わかりました。家に帰ったらおばあちゃんに伝えておきます。」

私はその奥さんにも参加していただきかけたのです。

おまいりはお年寄りだけの仕事ですか？
「そのうち」「そのうち」と言って大切な機会を逸してしまう私たちなのですね。

総本山 永観堂 禅林寺

汝 自ら^{まづ}当に知るべし

無量寿経

自分の中には

自分の知らない自分がある

汝 當に知るべし

総本山 禅林寺 第八十七世

法主 東大 鶴岡



つもりちがい十か条

高いつもりで低いのが教養

低いつもりで高いのが気位^{きぐらい}

深いつもりで浅いのが知識

浅いつもりで深いのが欲望

厚いつもりで薄いのが人情

薄いつもりで厚いのが面皮^{つらのかわ}

強いつもりで弱いのが根性

弱いつもりで強いのが自我

多いつもりで少ないのが分別^{ぶんべつ}

少ないつもりで多いのが愚痴

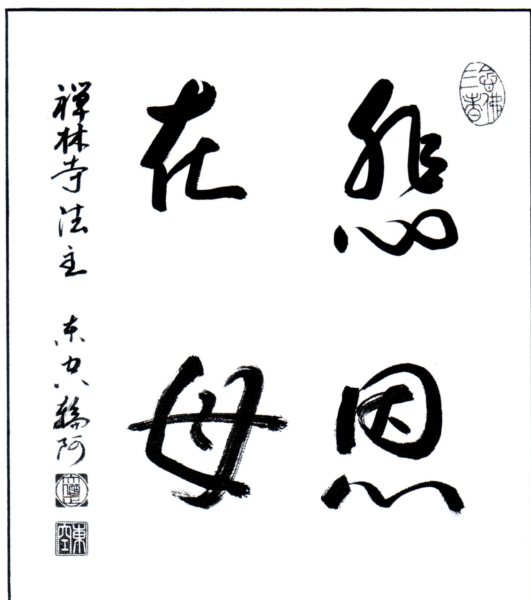
総本山 永観堂 禅林寺

悲母の子を念うこと、

世間に比^{たぐ}いあることなく

その恩未^み形^{きよう}に及^{およ}べり。

—— 父母恩重經 ——



母に悲恩あり。

「一筆啓上 火の要心 お仙泣かすな 馬肥やせ」。簡にして要を得た手紙をもとにして、福井県丸岡町が「母への手紙」を全国から募集したところ、三万通以上が集まったという。次はその入選作のいくつかである。

▼おふくろ、死ぬなよ。いいというまで死ぬなよ。親孝行が全部終わるまで死ぬなよ。

(28歳・男)

▼お母さん、雪の降る夜に私を生んで下さってありがとう。もうすぐ雪ですね。

(51歳・男)

▼いつの日か、最後は私と暮らそうね。嫌でもなんでもそうゆうきまりノ約束ね。

(33歳・女)

こんな手紙を読むと、母親の偉大さ、影響力の大きさを思う。と共に、一人ひとりが自分の母親という存在そのものに思いを馳せる時、大いなる生命の願いに気づかされる。

お母さんの命は、私の命につながっているのだ。

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長森 準玄親下のご染筆です。前号の色紙は、山口県小郡町 松富昭衛 様に贈呈いたしました。ご希望の方はハガキで住所・氏名・年令明記の上、下記へ申し込み下さい。毎月末〆切。名に進呈。

まさに行ないておこ

苦楽の地に至り趣くべしいた おもむ

無量寿経

諸悪莫作

衆善奉行

総本山 禅林寺 管長 永観堂 禅林寺

善因善果

愚痴が多く、嫁の悪口ばかり言っているおばあさんに、和尚さんがお説教した。

「おばあさん。あなたの病気は神経痛じゃない。本当はリヨウマチだよ。お宅の若いお嫁さんは、あなたにお迎えが早くこないかと待ちわびているだろう。地獄の鬼たちも、あなたの来るのを今か今かと待っている。両方から待たれているから、リヨウマチというんだよ」

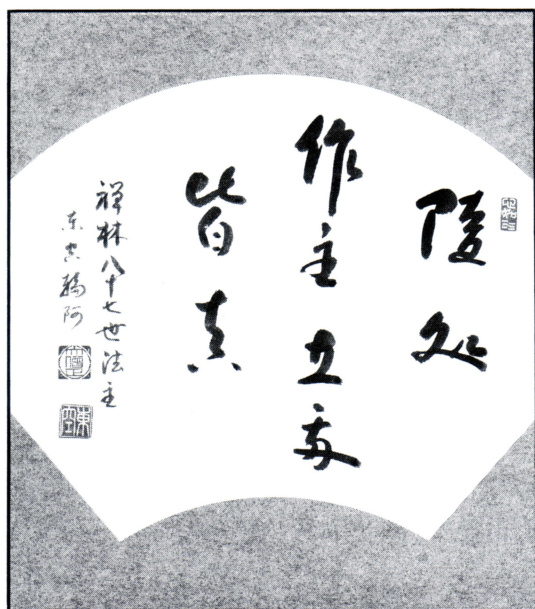
人を憎んだり、悪口を言ったり馬鹿にしていると、自分でこの世を地獄にしてしまう。どうせ、いつかは死ぬ身。仏さまが必ず待つていて下さると信じれば安心できる。そして、人にもやさしくなれる。そこが極楽。

総本山 永観堂 禅林寺

懈怠につけても

ますます大悲を仰ぐべし

—— 鎮勸用心 ——



一生はみずからが主人公

ひとそれぞれの時間のサイクルはあるだろうけれど、たとえば、いち日を一時間か半時間で区切ってみよう。

起きてから休むまでの「十六時間」を、あなたはどのように使いますか。

十六コマ、あるいは三十二コマは、あなたに与えられた今日のフィルムの枚数です。現像し終えて、あなたは啞然とするでしょう。映っていない、ピントがぼけている、フィルムが巻けていない……などなど。

今日のあなたは、もう二度と帰ってきません。リハールサルもNGもない、「私が主人公」のあなたがそこに映っていないければいけません。ピントが合って、中央に大きくそこにほほ笑んでいますか。

ファインダーをのぞくのはあなた。

そこに拡がる世界は仏さまの風光かもしれません。

総本山 永観堂 禪林寺

右の色紙は管長森 準玄猊下のご染筆です。前号の色紙は 兵庫県大塩西光寺檀家乙女シナ子様に贈呈いたしました。ご希望の方はハガキで住所・氏名・年令明記の上、下へ申し込み下さい。毎月末、切一名に進呈。

天^{てん} 下^げ 和^わ 順^{じゆん}
 兵^{ひよう} 戈^が 無^む 用^{ゆう}

大無量寿經

天^{てん} 下^げ 和^わ 順^{じゆん}
 兵^{ひよう} 戈^が 無^む 用^{ゆう}

総本山 淨林寺 法主 宗也



敗戦五十回忌を思う

日本が敗戦の国となって五十年。

遠く厳寒の国土や南洋の孤島に、ふるさと日本を思う若い命が幾百万人犠牲になったことであろう。

ふるさとの山河、父母を思い、日本の将来に思いを馳せて、純粹な命が散っていった。

今、日本は豊饒の経済のなかで、物心にわたる自由な活動がゆるされている。

しかし、いまだ傷ついた癒やされることのない心を携えて生きている人々がいる。いくら星霜を重ねても、いくら満たされたかに見える生活がそこにあらうとも、そのことを忘れてはなるまい。

忘れてもいいものと忘れてはならないものがある。如来のたいなる慈悲は、その二つを超えたところにそのいわれがある。

総本山 永観堂 淨林寺

無始より乃至今身にいたるまで、

三宝を殺害せること数知らず。

— 善導大師「広懺悔文」 —

知らぬうちの殺生

「ただいまあ。お母ちゃん、お母ちゃん、あのなら、今日なあ……………」

「忙しいの、後、あと」

「ねえ、今度の日曜にねえ……………」

「ああ、仕事」

「ほら、この花きれいでしょ。」

「……………」

相手の心を踏みにじっているだけではない。相手の心を思いやる私自身の心をやさしさを殺しているのです。

私の中の仏様の心を殺しているのです。

総本山 永観堂 禅林寺

総本山 禅林寺 法主 永観堂



ふ 殺
生 戒

右の色紙は管長森 準玄親下のご染筆です。前号の色紙は、岐阜市在住 後藤浩子様に贈呈いたしました。ご希望の方はハガキで住所・氏名・年令明記の上、下記へ申し込み下さい。毎月末、切一名に進呈。

往生というは仏のみ心と
我が心と一つになりあ
たる所を申すなり

—— 西山上人『機法一体』 ——

一 佛 如 凡

総本山 禅林寺 法主 東山



一本の木が切られ、短くされ、やがて適
当な太さに割られ、乾燥されて、一つの割
木にされました。そして、キャンプファイ
ヤーの焚き木として火が灯されました。
どちらを火といい、どちらを木というので
しょうか？ それはもう木ではなく、火そ
のものになったのです。

人として生まれ、縁あって出会ったお念
仏の功德で、私達はもう一個の人ではなく
なり、みほとけと一つになっていくのです。
もう今までの人ではなくなりました。それ
は、私の力ではなく、私の心に、みほとけ
という火がともされたことになるのです。
私という木の善し悪しには関係なく、みほ
とけの火として燃え上がることができるの
です。

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長森

準玄猊下のご染筆です。前号の色紙は、奈良市押熊町在住 杉澤伸也様に贈呈いたしました。

ご希望の方はハガキで住所・氏名・年令明記の上、下記へ申し込み下さい。毎月末メ切一名に進呈。

佛法に命をまかする時も
真の信をとらざりければ
いまだなほ常没の凡夫たり

— 西山上人「女院御書」—

無量

総本山 禅林寺 八十七世法主 永観堂



命とは人をうごかすものだと思います。

命は仏様からもらったたいせつなものです。
命がない人はぜったいにいません。なぜなら、みんな生きているからです。死んでい
ると命はありません。だから自分の命は、
たいせつなものだと思います。だから、み
んな命をたいせつにしています。

命をたいせつにしない人は、たぶんきつ
と体にはあっても、心の中にないのです。
命をそまつにははいけません。

田中隆典（小4）

肉体の命と、精神のいのちの、その両方
ともに、尊厳があることを、覚えていたい
ものです。

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長森 準玄親下のご染筆です。前号の色紙は、名古屋市中村区在住 江崎恒美様に贈呈いたしました。
ご希望の方はハガキで住所・氏名・年令明記の上、下記へ申し込み下さい。毎月末、切一名に進呈。

人 ひたすら 至心に精進して

道を求めて止やまざることあらば

みなまさに 剋なすとげ果らるべし

— 無量寿経 —

求道 精進

総本山 禅林寺 法主 永観堂 印

総本山 永観堂 禅林寺

だれだって、漫然と生きているわけでは
ありません。見た目にはたいしたことな
くても、自分のなした小さな積み重ねが、
何かの形で社会の役に立っているのです。
あたりまえの日常のくり返しであっても、
その一人ひとりの生きざまに意味があるの
です。

自分はよくやっているではないか、と言
いきかせて、迷いながらも一歩ずつ前進
しましょう。その因もとは、精進、努力。

一日をつくした人には 一日は美しい
一月をつくした人には 一月はうれしい
一年をつくした人には 一年は輝かしい
一生をつくした人には 一生は無限への
道である